

## 1. 新規事業採択時評価

### 【空港整備事業】

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	便益 (B)		費用 (C) (億円)	B / C	その他の指標による評価
		総便益 (億円)	便益の主な根拠			
広島空港 ILS高カテゴリー化事業 国	82	126	就航率の改善 通年の就航率が現状（平成11年～13年 の平均）の98.9%から0.6%程度の向上 が見込まれる。	75	1.7	・空港の信頼性が向上することにより、観光、ビジネス等の交流が活性化し、地域経済の発展が期待される。 ・上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO <sub>2</sub> 等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。
青森空港 ILS高カテゴリー化事業 青森県	30	96	就航率の改善 通年の就航率が現状（平成11年～13年 の平均）の97.5%から1.2%程度の向上 が見込まれる。	36	2.7	・空港の信頼性が向上することにより、観光、ビジネス等の交流が活性化し、地域経済の発展が期待される。 ・上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO <sub>2</sub> 等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。

## 2. 再評価

### 【空港整備事業】

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	便益 (B)		費用 (C) (億円)	B / C	その他の指標による評価	対応方針
			総便益 (億円)	便益の主な根拠				
新北九州空港建設事業 国	10年 継続中	980	2,094	航空利用者 （航空需要予測： 平成19年度 283万人）	1,105	1.9	・陸域から約3km離れた海上に建設することから地域住民に対する航空機騒音の影響の低減に寄与する。 ・空港島及び沿岸部に空港関連産業の立地が想定されるなど、地域の産業の発展や雇用の創出が期待される。	継続

### 【航空路整備事業】

事業名 事業主体	該当基準	総事業費 (億円)	便益 (B)		費用 (C) (億円)	B / C	その他の指標による評価	対応方針
			総便益 (億円)	便益の主な根拠				
広域航法衛星ネットワーク整備 航空局	10年 継続中	1,669	9,125	飛行経路短縮による費用削減効果 （航空需要予測： 国内線航空旅客需要伸び率 2000-2007:2.2% 2007-2012:3.4% 2012-2017:1.6% 2017- :1.1% 国際線航空旅客需要伸び率 2000-2007:3.6% 2007-2012:5.1% 2012-2017:4.1% 2017- :3.7%）	3,526	2.6	・アジア太平洋地域における航空交通の効率化によって国際貢献に資するとともに、飛行経路設定の自由度が高まることにより、NOx、CO <sub>2</sub> 等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減といった環境改善効果がある。	継続

## 3. 再評価の実施に関する予備的検討

### 【空港整備事業】

事業名	実施主体	事業期間 (年度)	総事業費 (億円)	再評価の 必要性	理由
花巻空港地方空港整備特別事業 (2,000m 2,500m)	岩手県	H10～H16	55	無し	・冬季就航率等が低い状況に変化はない。 ・事業は、今後とも順調に実施される見込み。
中部国際空港整備事業	中部国際空港株式会社	H10～H16	7,680	無し	・事業進捗は順調であり、当初予定通りの供用開始時期に合う見込み。 ・建設コストについては大きな変動は無く、当初予定の総事業費内になる見込み。 ・事業採択以降も利用状況は堅調。